

注目のエコエネルギー地中熱利用システムが 初期投資0円で導入できる事業を開始。

再生可能エネルギーの導入は、CO2排出量の削減のみならず、エネルギー供給リスクの低減という観点からも関心が高まっています。
 風力、太陽光など数ある再生可能エネルギーの中で、安定したエネルギーとして地中熱利用システムが注目されています。

地中熱ヒートポンプシステム導入のメリット

大きな省エネ効果

暖房時は外気より高い温度、冷房時は外気より低い温度の地中の熱を熱源とするため、効率の良い運転が可能です。

CO₂排出量の低減

高効率な運転により
 CO₂の排出量の削減ができます。

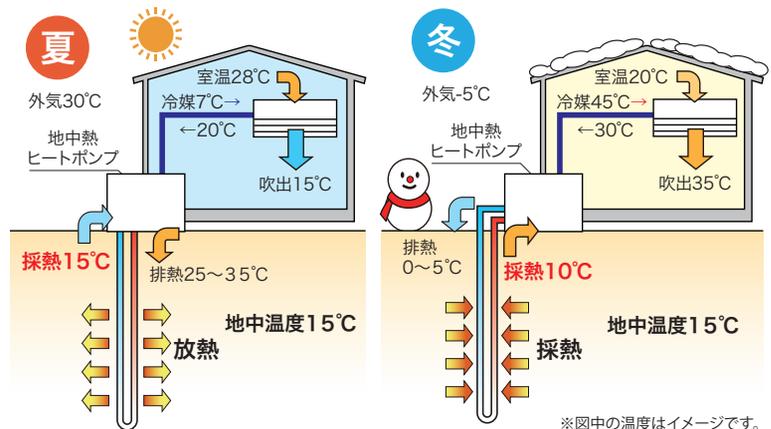
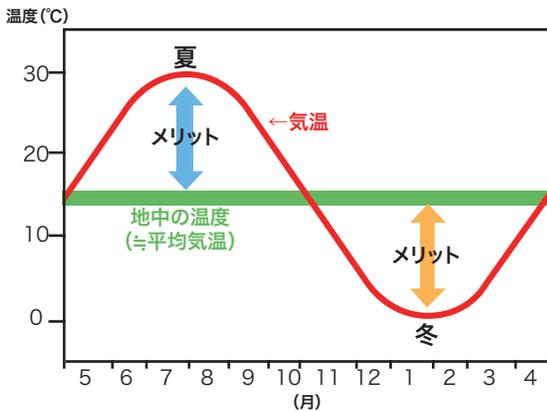
企業のイメージアップ

地球温暖化の原因となるCO₂をほとんど排出しないエネルギーを使用していることをアピールできます。

地中熱ヒートポンプとは土の中の熱を利用する冷暖房システム

深さ75m~100mの地中温度は1年を通して10℃~15℃前後で安定しています。四季のある日本では、冬と夏に地上と地中との間で10℃から15℃もの温度差が生じています。つまり、温度が一定である地中は冬には温かく夏は冷たい。地中熱ヒートポンプはこの温度差に着目して、効率的に熱エネルギーを利用した冷暖房システムなのです。

地中熱ヒートポンプのイメージ



※図中の温度はイメージです。

初期投資ゼロでCO₂削減ができる省エネESCO事業

ESCO事業とは、すべての費用(建設費、金利、ESCO事業者の経費)を省エネルギー改修で実現する光熱水費の削減分等で賄う事業です。さらに契約期間終了後の光熱水費の削減分はすべて利用者の利益になります。また、ESCO事業者による資金調達を活用する場合は、事業開始初年度から、従来の光熱水費支出以上の経費負担が発生することがなく、同時に省エネルギーを推進し、温室効果ガス排出削減を実現することが可能です。

